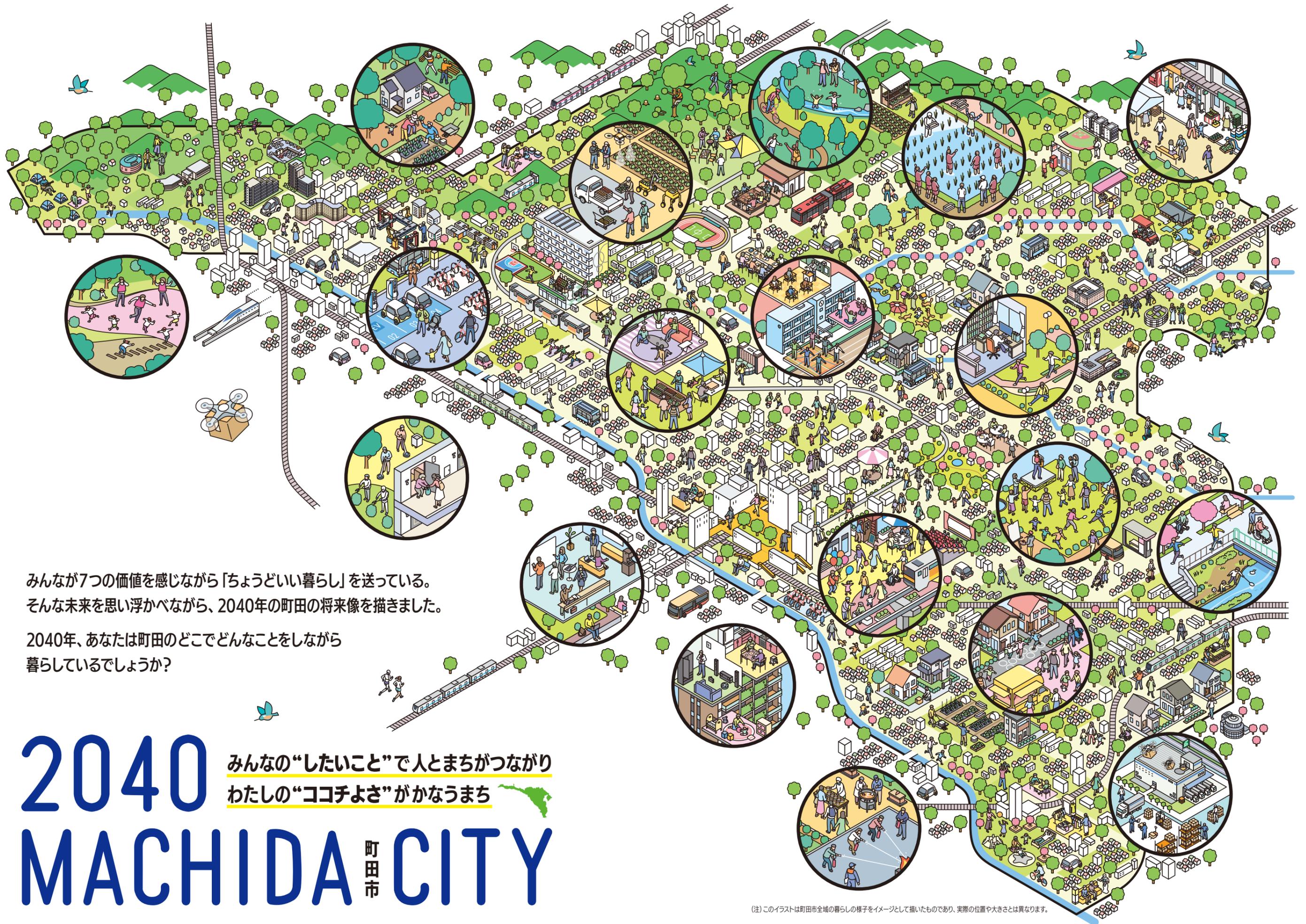


ビジョン編

アフターコロナや人口減少社会の到来など、今後20年先を見据え、
また、多摩都市モノレールを中心とした大規模交通を迎えるにあたり、
町田市の「将来像」とその実現に向けた「行動指針」「設計図」を示します。



みんなが7つの価値を感じながら「ちょうどいい暮らし」を送っている。
そんな未来を思い浮かべながら、2040年の町田の将来像を描きました。

2040年、あなたは町田のどこでどんなことをしながら
暮らしているでしょうか？

2040 MACHIDA CITY

町田市

みんなの“したいこと”で人とまちがつながり
わたしの“ココチよさ”がかなうまち

(注) このイラストは町田市全域の暮らしの様子をイメージとして描いたものであり、実際の位置や大きさは異なります。

2 都市づくりのポリシー

「暮らしとまちのビジョン」を実現するためには、都市づくりに関わるみんながどのように考えて取り組んでいけば良いか、基本的な考え方を「都市づくりのポリシー」として示します。

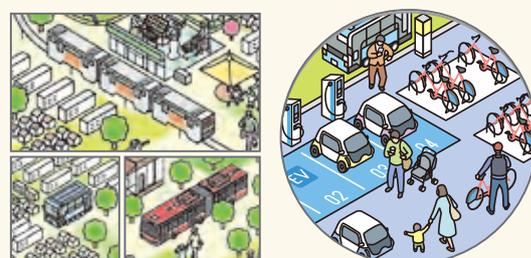
1 みんなを惹きつける場所(目的地)をたくさんつくる

まちなかにはさまざまな人が集い交流しながら都市的な活動を楽しめる場所を、里山^{活用}には農やみどりを活かした学習・経験やスポーツ・レジャーが楽しめる場所を、それぞれの特性にあった魅力的な場所をつくってたくさんの人を惹きつけよう！



2 目的地まで気軽に好きな方法で行ける“移動しやすさ”を用意する

「徒歩」「自転車」「公共交通」「新しいのりもの」など、さまざまな選択肢の中から移動方法を選び、組み合わせて移動できる環境をつくって、住宅地でもまちなかでも誰もが移動しやすくしよう！



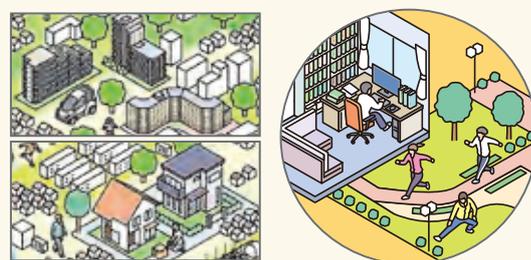
3 働く・遊ぶ・食べる・買うなどさまざまなお気に入りの場所が見つけられる環境をつくる

「働く」「遊ぶ」「食べる」「買う」など、日々の営みの中で行われるさまざまな活動が、好きな場所でできるような多機能性のある環境をつくって、いろんな目的の人を集めよう！



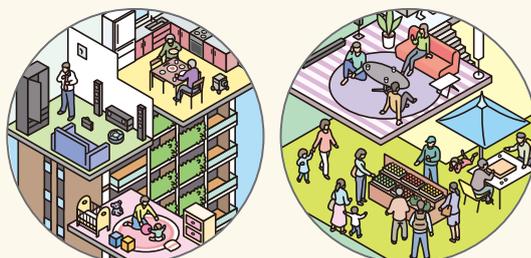
4 にぎわい・ゆとり・みどりを活かして住まいのバリエーションを増やす

駅周辺の拠点では「便利さやにぎわい」、住宅地では「ゆとりある空間」、丘陵地の近くでは「みどりに囲まれた自然豊かな里山環境」など、地域の特徴を積極的に活かした住まいのバリエーションを増やして、いろんな“住みたい”を叶えよう！



5 それぞれのライフスタイル・ステージに合った住まいが気軽に選べるしくみをつくる

ひとつの場所に捉われるのではなく、ライフスタイル^{活用}やライフステージ^{活用}などその時の自分に合わせて住み替えができるような仕組みを整えて、みんなが“ちょうどいい住まい”を選べるようにしよう！



6 身近な公園や道路など、まちのあらゆるオープンスペースを使いやすくする

身近な公園でキッチンカーのランチを楽しんだり、みんなが安心して道路で遊んだり、今の仕組みを見直して、オープンスペースをもっと自由に使って楽しめるようにしましょう！



7 まちの中のもったいないところをうまく使う

公共施設や空き家など、今は十分に使われていないまちの資源を見直して、新しいアイデアや工夫で最大限の価値を引き出そう！



8 みんなの“やりたい”を掘り起こし、みんなで育て、実になるしくみをつくる

みんなで住まい周辺の環境に関心に向け、より良くするアイデアを考え、それを実現していく仕組みを整えて、日々の暮らしをさらに楽しく豊かなものにしよう！



9 今ある“緑”を、とにかく元気になれる“みどり”に仕立てなおす

豊かな緑を、農や生態系が学べたり、新鮮な地元野菜が食べられたり、スポーツやレジャーが楽しめたりできる“みどり”に仕立て直して、みんなのココロとカラダを元気にしよう！



10 どんなときもみんなが安全で安心できる環境をつくる

災害や感染症などのリスクへの備えや、交通安全・防犯など日々の暮らしを守る方法をみんなで学び、取り組むことで、どんなときも安全・安心に暮らせるようにしましょう！



11 みんなで協力して、まちを日々整える

自分の土地・建物はもちろん、周辺環境も含めて適切に保つとともに、時代の変化に合わせて最適な状態にアップデートしながら、これからも快適に暮らし続けていけるまちにしよう！

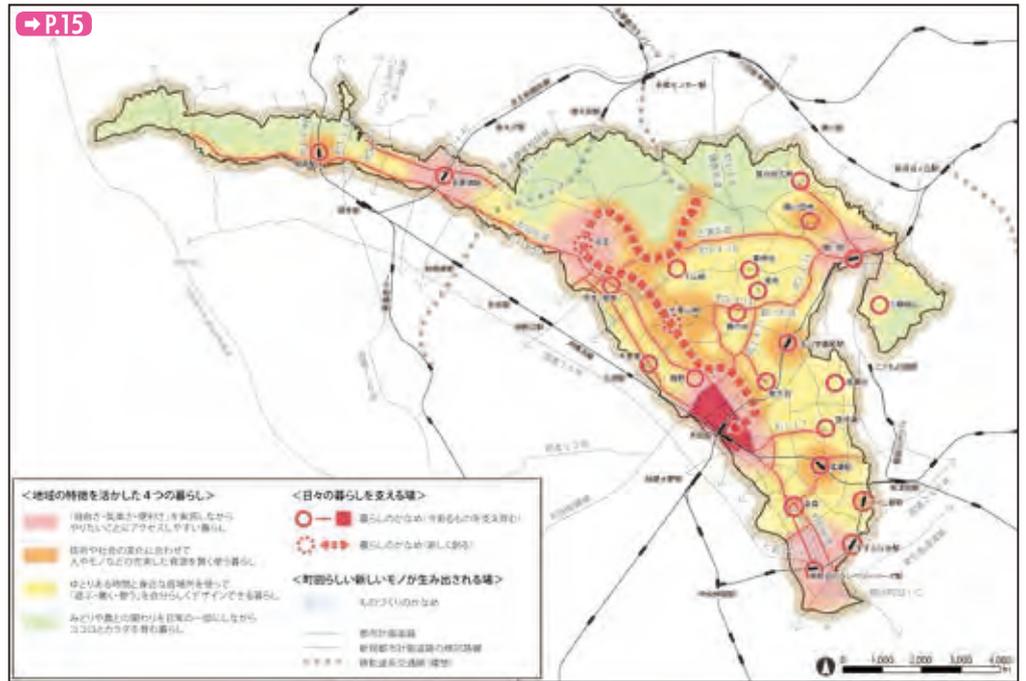


3 将来のまちの“もよう”と“つくり”

「暮らしとまちのビジョン」を実現し、2040年のまちだがみんなにとって暮らしたいと思える魅力的なまちになるために、地域の特徴を踏まえた2層の設計図に基づいて都市づくりを進めます。

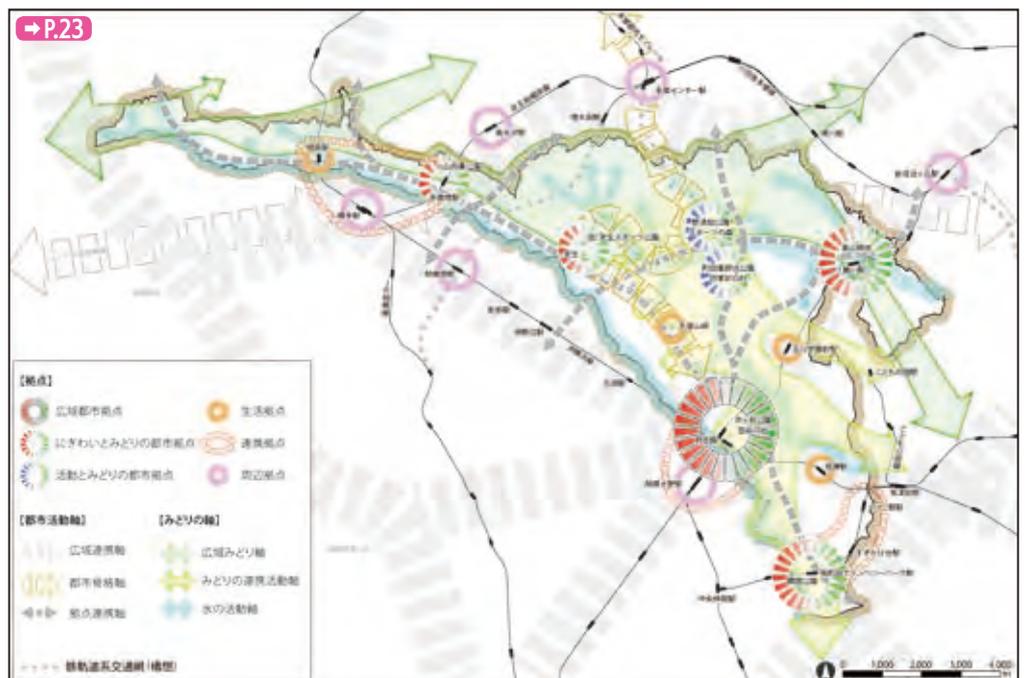
1 まちの“もよう” (暮らしとかなめの図)

市民の暮らしの視点からまちの“もよう”を捉え、2040年に市内各所で展開される暮らし方やまちの使い方を「地域の特徴を活かした4つの暮らし」として整理し、「日々の暮らしを支える場」や、「町田らしい新しいモノが生み出される場」の考え方とともに示します。



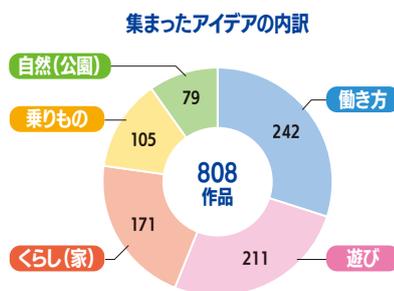
2 まちの“つくり” (拠点と軸の図)

隣接市を含めた広域的な視点でまちの“つくり”を捉え、都市の骨格的な構造を「拠点」と「軸」で示します。



みんなの“未来”を描いてみよう！

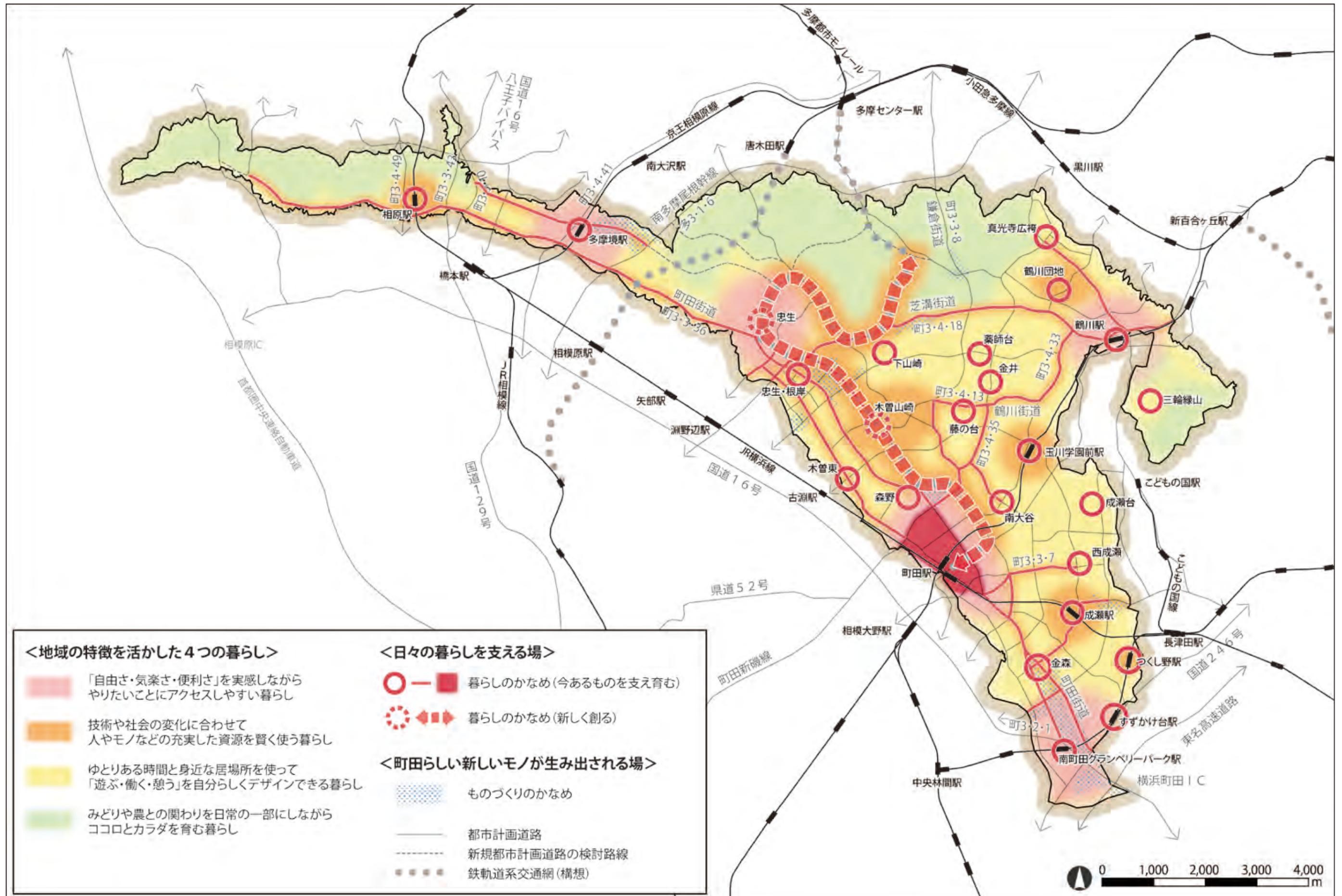
皆さんからいただいた「2040年のまちだでして
いたいこと」全作品を紹介します。描いてくれ
た作品はそれぞれが未来のまちだを作っていく
アイデアです。未来のまちだがどんなまちにな
るか、想像しながら見てみよう。



みんなの未来を描いてみよう！ギャラリー

01

1 まちの“もよう” (暮らしとかなめの図)



<地域の特徴を活かした4つの暮らし>

- 「自由さ・気楽さ・便利さ」を実感しながらやりたいことにアクセスしやすい暮らし
- 技術や社会の変化に合わせて人やモノなどの充実した資源を賢く使う暮らし
- ゆとりある時間と身近な居場所を使って「遊ぶ・働く・憩う」を自分らしくデザインできる暮らし
- みどりや農との関わりを日常の一部にしながらココロとカラダを育む暮らし

<日々の暮らしを支える場>

- 暮らしのかなめ(今あるものを支え育む)
- 暮らしのかなめ(新しく創る)

<町田らしい新しいモノが生まれる場>

- ものづくりのかなめ
- 都市計画道路
- 新規都市計画道路の検討路線
- 鉄軌道系交通網(構想)

※「鉄軌道系交通網(構想)」は、「小田急多摩線延伸に関する関係者会議」及び、「多摩都市モノレール町田方面延伸ルート検討委員会」の資料を基に町田市が作成したものです。(本マスタープラン策定時点で都市計画決定されているものではありません。)

まちの「もよう」 ① 地域の特徴を活かした4つの暮らし

市内それぞれの地域の特徴を活かしながら、将来どこでどんな暮らし方ができるのかを、「暮らしとまちのビジョン」から象徴的な4つのエリアを切り出して表現しています。

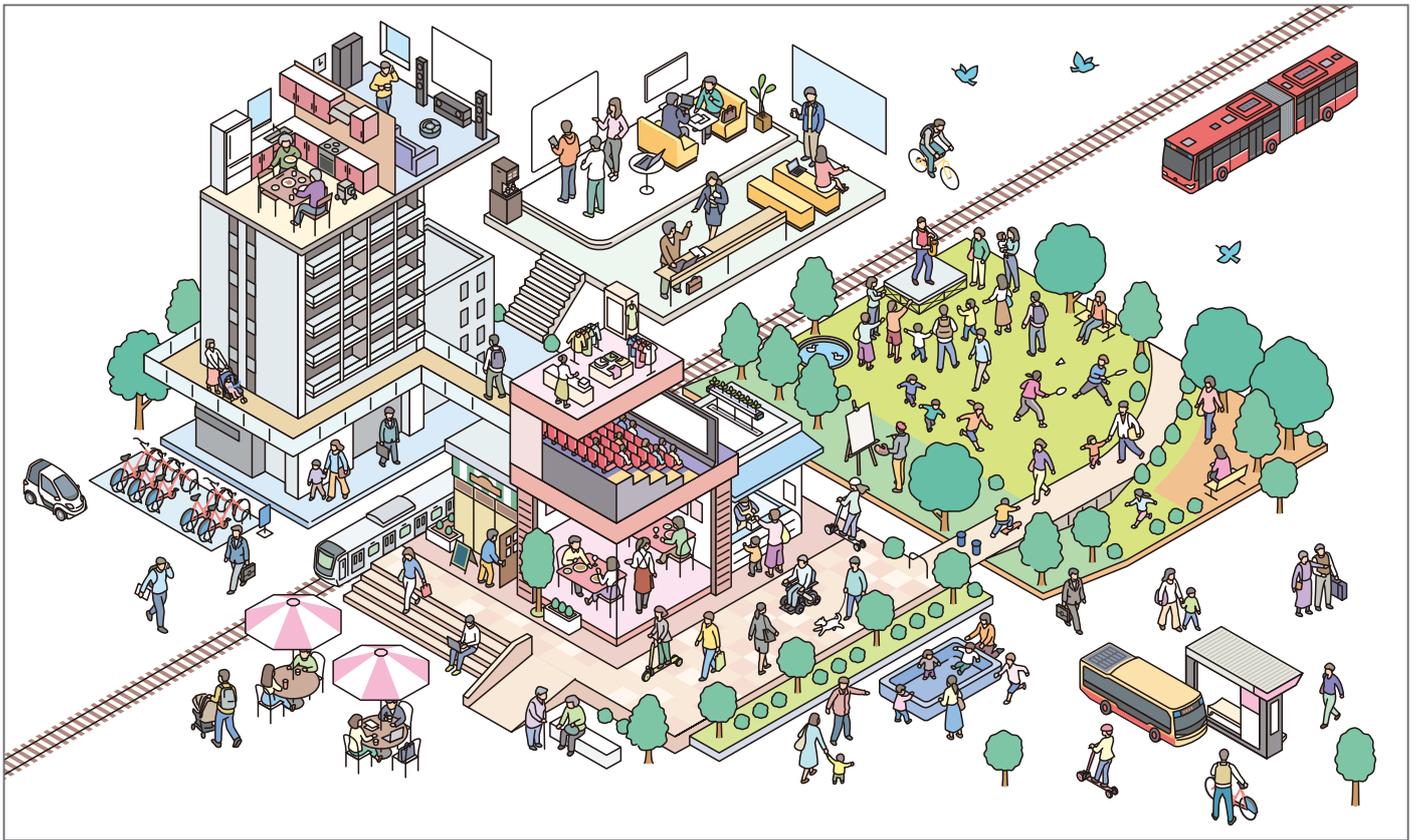
「自由さ・気楽さ・便利さ」を
実感しながら
やりたいことに
アクセスしやすい暮らし

ゆとりある時間と
身近な居場所を使って
「遊ぶ・働く・憩う」を
自分らしくデザインできる暮らし



技術や社会の変化に合わせて
人やモノなどの充実した資源を
賢く使う暮らし

みどりや農との関わりを
日常の一部にしながら
ココロとカラダを育む暮らし



「自由さ・気楽さ・便利さ」を実感しながら やりたいことにアクセスしやすい暮らし

主な地域の例 ● 拠点駅の周辺

出歩きたくなる・
歩きやすい

- 駅前にはオープンスペース^{▶用語}に寄り添った商業空間や、雑多なエリアの「ワクワク感」など魅力があふれ、思わず出歩きたくなる。
- 「歩く空間・集う空間」が確保され、自家用車の乗り入れがないウォークブル^{▶用語}なまちは、早く移動したい人、ゆったり歩きたい人のどちらにとっても快適に歩きまわれる。
- 電車・モノレール・バスだけでなく、グリーンスローモビリティ^{▶用語}やシェアモビリティ^{▶用語}などにも快適に乗り継ぎができる。

まちで働く幸せが
感じられる

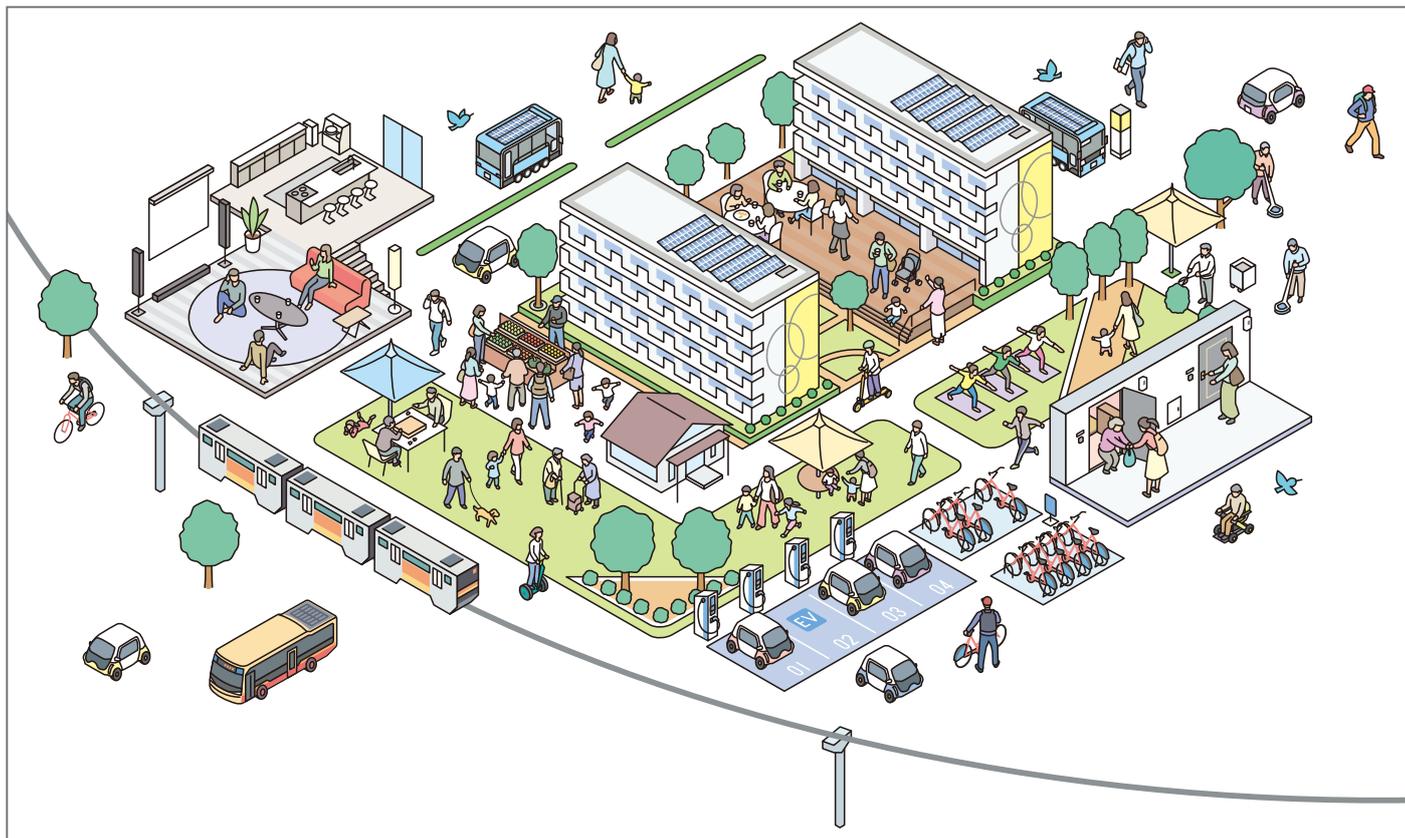
- 今日はまちなかのワークスペースで、明日は川辺・公園で、その日働く場所（スペース）を自由自在に選べる。市民も沿線の人たちも拠点駅に行けば楽しくワークでき、新しい出会いからの発想も生み出せる。
- 都心へ毎日通う必要のない人や、地域がビジネスフィールドの人にとって、使いやすく、質の高い、心地よい環境がある。

公園はやっぱり
まちの暮らしの中心

- 公園やオープンスペースは、なんとなく憩いに行くのはもちろん、やりたいことがある人にとってはいろんな活動が展開できる舞台にもなる。
- 公園に向かう通りには、まちなかや公園から文化・商業・みどりなどのさまざまな魅力がにじみ出していて、通りそのものが心地よく楽しい。

買い物の
場所だけではない、
住んでもいいじゃない

- 駅近には良質な賃貸住宅や分譲住宅が揃い、便利でコンパクトな住まいでまちの文化に親しみながら暮らせる。
- 子どもが巣立ち世帯人数が少ないシニア世帯も、郊外の広い戸建て住宅からちょうどよい住まいに住み替えて、市内で安心して住み続けられる。
- 電車・モノレールに乗って都心に通勤しやすく、週末には健康づくりやリフレッシュのために大規模なみどりのある北部丘陵^{▶用語}エリアや、箱根の温泉へも気軽に足を伸ばせる。



技術や社会の変化に合わせて 人やモノなどの充実した資源を賢く使う暮らし

主な地域の例 ● 駅や主要な通りの近くにある住宅地周辺

地域と人がつながって
資源を上手に使える

● 周辺から多くの人が集まる特性を活かし、充実している資源を地域全体で効率的・効果的に使って便利な暮らしができる。

(例えば団地では「シェア」でつながる)

- | | |
|--------------|---|
| ① 住まいのシェア | 学生、独立したての若者が集まって住む。
高齢者が生活支援サービスの充実した住戸と一緒に暮らせる。 |
| ② 時間のシェア | 団地住民同士に留まらず、地域の人が集まる場所や仕掛けがあり、コミュニティとして一緒に過ごせる。 |
| ③ モノのシェア | 団地内の充実した資源を地域住民や市民全体で活用できる。 |
| ④ 移動のシェア | いくつもの新しいシェアモビリティが活躍し、
地域内外を気軽に便利に移動できる。 |
| ⑤ 仕事・スキルのシェア | 多様な人が集まる団地では、多様なスキルが集まって、
それを必要とする人が繋がる。 |

コミュニティジョブで
地域のくらしが
もっと楽しくなる

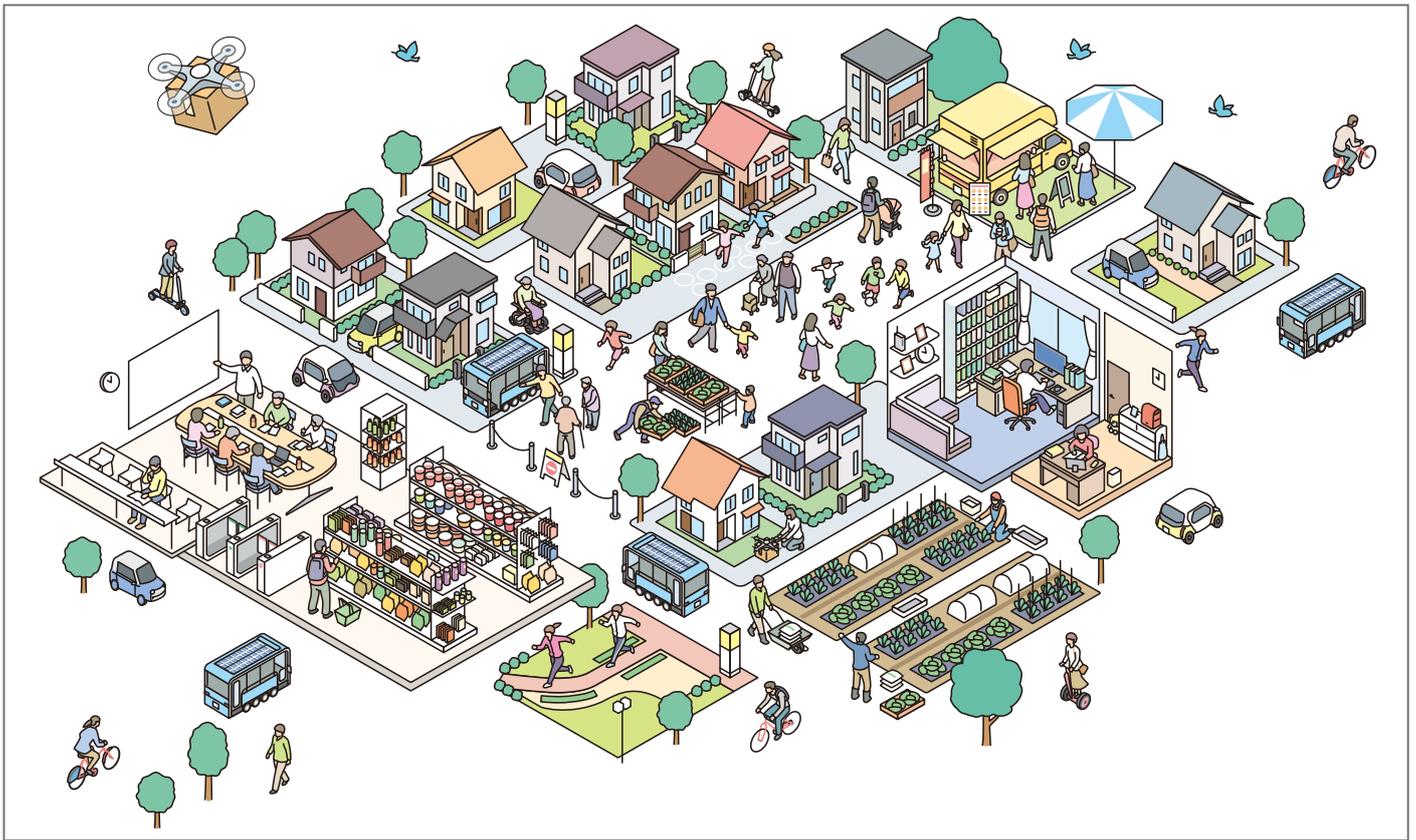
● 買い物代行やベビーシッター、公園や広場の管理、団地の管理など、地域の中にボランティアではない小さな日常のジョブがたくさんあり、例えば週2～3日だけ働くなど、時間を柔軟に活用して地域の中で働ける。

地域の拠点から
あちこちにお出かけできる

● 広域の移動から地域内の移動まで、日常のさまざまな移動に対応できるモビリティ用語が集まり、地域の人のお出かけを支えてくれる。

生まれ変わるまちの
新たな暮らし

- 団地から生まれ変わったまちは、若年者から高齢者まで多世代がコンパクトで便利に暮らせる。まちの中のオープンスペースやサービス施設では、周辺地域の住民同士が交流している。
- 通勤通学に便利で、子育てもしやすい、バランスの良い住まい。広さや間取り、賃貸と分譲などさまざまなバリエーションから住まいを選ぶ。
- 安全・快適に暮らせるシニアサービス付きの住まい。家族の訪問やまちへの外出も便利で安心して住み続けられる。



ゆとりある時間と身近な居場所を使って 「遊ぶ・働く・憩う」を自分らしくデザインできる暮らし

主な地域の例 ● 低層住宅地

日常的に使える
心地よい居場所に
囲まれている

- 自動運転の移動販売車やキッチンカー・ちょい飲み屋台が定期的に来てくれる公園がある。スーパーへの買い物のついでに立ち寄ることができ、毎日の暮らしに彩りを添えている。
- 落ち葉で焼き芋、デイキャンプなど、子どもたちがやってみたいと思うことを、地域住民が企画・実現できて楽しく過ごせる。
- 身近な農地は、野菜づくりを楽しめるだけでなく、採れた野菜でバーベキューや収穫祭などのイベントも企画して、仲間と楽しく過ごせる。
- 住宅地内は歩きやすく、自転車も走りやすい。週末には、交通量の少ない道路の一面を、時間を区切って「歩行者天国」に利用。道路が子どもたちの遊び場や井戸端会議の場になり、新しいコミュニケーションが生まれている。

時間を有意義に使える
「職住融合」の暮らし

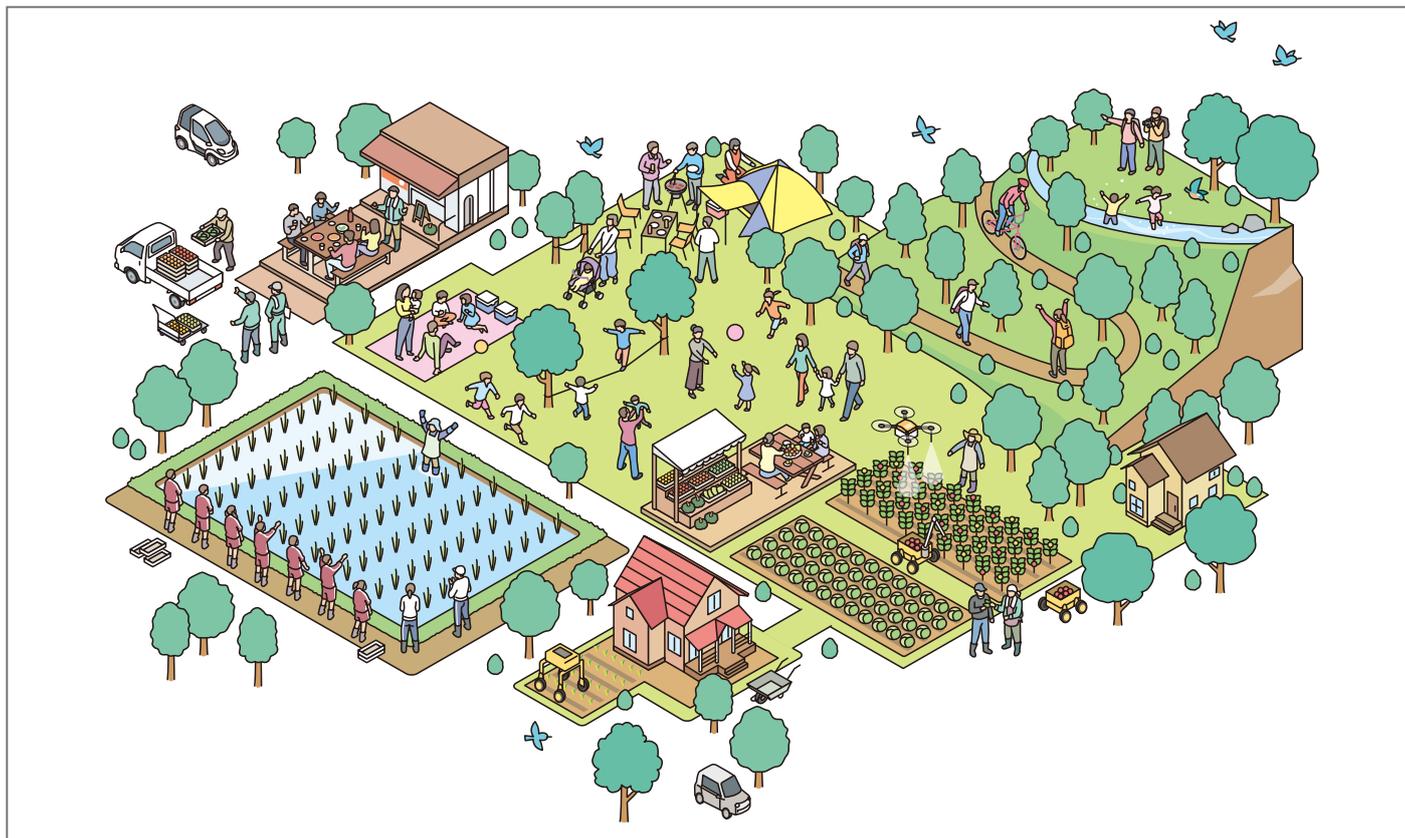
- 自宅の一室に仕事の空間を確保し、平日の半分はテレワーク^{▶用語}で作業。ちょっとした対面打合せや商談など、自宅ではできない用事は近所のお店で済ませられる（多機能なコンビニなど）。空いた時間を使って余暇を楽しみ、仕事もプライベートも充実した生活を送っている。

身近な自然を感じながら
健康的に暮らせる

- 住宅地の周辺にある緑地や河川沿いなどは、体力づくりにも気分転換にも最適な環境で、毎日健康的に暮らすことができる。
- ゆとりある敷地を活かし多様なモビリティ^{▶用語}に対応できるスペースを確保した住宅があり、コンビニ・スーパー・集会所などは、シニアカー^{▶用語}や電動車いすのまま利用できる。地域を離れる時もバス停にはスモールモビリティ^{▶用語}用の駐車スペースがあり、安心して移動できる。

みんなの
「やりたい」を実現する
地域のマネジメント

- 公園や道、空きスペースを心地よい場所に変えるため、地域のみんなが自主的に協力して管理や使い方のルールを作り、実践している。



みどりや農との関わりを日常の一部にしながら ココロとカラダを育む暮らし

主な地域の例 ● 市街化されていない丘陵地とその周辺

里山の農やみどりが
もっと身近で
馴染みあるものになる

- 里山^{用語}の農やみどり、水辺など、昔から引き継がれてきた象徴的な風景が身近にある。そんな生活が、みんなにとって馴染みある暮らしと感じられている。
- 市内各所から小中学生が集まり、田植え・稲刈り・炭焼きなど、里山の環境を活かした体験ができ、町田ならではの学びの場で子どもたちの心と体が健やかに成長する。

農やみどりに
関わりたい人の
思いが実現する

- 援農ボランティアや市民農園^{用語}で汗を流したり、農業研修で学んだ技術を新規就農者として活かすなど、さまざまな形で農に関わりたいという思いが実現されている。
- 地元野菜が地域内のレストランで味わえたり、小売店舗などで手に入れたり、地元野菜とのつながりが健康的な暮らしを支えている。
- 間伐材を利用した木材加工品の制作など地域の木材等を利用したイベントに参加することで地元の木へのぬくもりを感じている。

地元のみどりの中で
ココロとカラダが
健康になれる

- 自然環境を活かしたスポーツやレジャーを楽しむことができるフィールドがつけられるなど、さまざまな目的にあわせてみどりに関わる人が増えている。
- 民家を再利用した仕事の間がつけられ、みどりを間近に感じながら気持ちよく健康的に働くことができる機会が増えている。

農やみどりに包まれた
環境で住み続けられる

- 地元で暮らしてきた人たちが、新たに住む人たちとともに、地域資源を有効に活用しながら、地元への愛着を持って住み続けている。
- 「地域の農やみどりを守る」「歴史や文化を次世代に引き継ぐ」という思いを持った人が地元に住みながら活動している。

まちの“もよう” ② 日々の暮らしを支える場

それぞれの地域の特徴を活かして暮らし続けていくためには、日常生活に必要な買い物や用事などを済ませることができる場所が必要です。

そういう場所を「暮らしのかなめ」と名付け、地域のみんなで支え育んでいきます。



■暮らしのかなめ —今あるものを支え育む—

住宅地内や通り沿いの「暮らしのかなめ」

住宅地の中心や大きな通り沿いにある「暮らしのかなめ」は、例えば、スーパーやコンビニ、かかりつけの医院、お気に入りのカフェやパン屋、行きつけのごはん屋など、地域に根付いたお店が集まっています。また、子育てファミリーが集まる場所に使ったり、空き地で小さなマルシェを開いたり、みんなが多機能に使いこなせる場所になっています。

主要な駅周辺の「暮らしのかなめ」

主要な駅の周りに広がる「暮らしのかなめ」は、町田駅や鶴川駅などのように、大きな拠点として魅力と活力にあふれた場所であると同時に、周辺の住宅地で生活する市民にとって日々の暮らしを支える場にもなっています。

身近な駅周辺の「暮らしのかなめ」

身近な駅の周りに広がる「暮らしのかなめ」は、通勤や通学で駅を利用したり、バスなどで他の目的地に移動する人たちも集まります。日々の暮らしを支えることに加えて、郵便局や銀行、学習塾や習い事、医療施設やスポーツジムなど、日常生活の中で必要な用事や目的を果たすための場所にもなっています。

▶これらの「暮らしのかなめ」を支え育んでいくために、日々の暮らしや多様な活動に必要な都市機能の維持・育成を図ると共に、既存の施設やオープンスペースの活用、移動に関する新たな技術やサービスへの対応など、時代の変化に合わせてアップデートしていく必要があります。

■暮らしのかなめ —新しく創る—

- 多摩都市モノレールの沿線は、新たに形成される「暮らしのかなめ」になります。
- 多摩都市モノレールの導入空間として整備される道路の沿道を含めた周辺地域には、暮らしを支える生活利便施設などが集まり、日々の暮らしを支える場が創られています。

▶「暮らしのかなめ」を新しく創っていくためには、周辺住宅地の日々の暮らしや多様な活動を支える都市機能の育成が必要です。



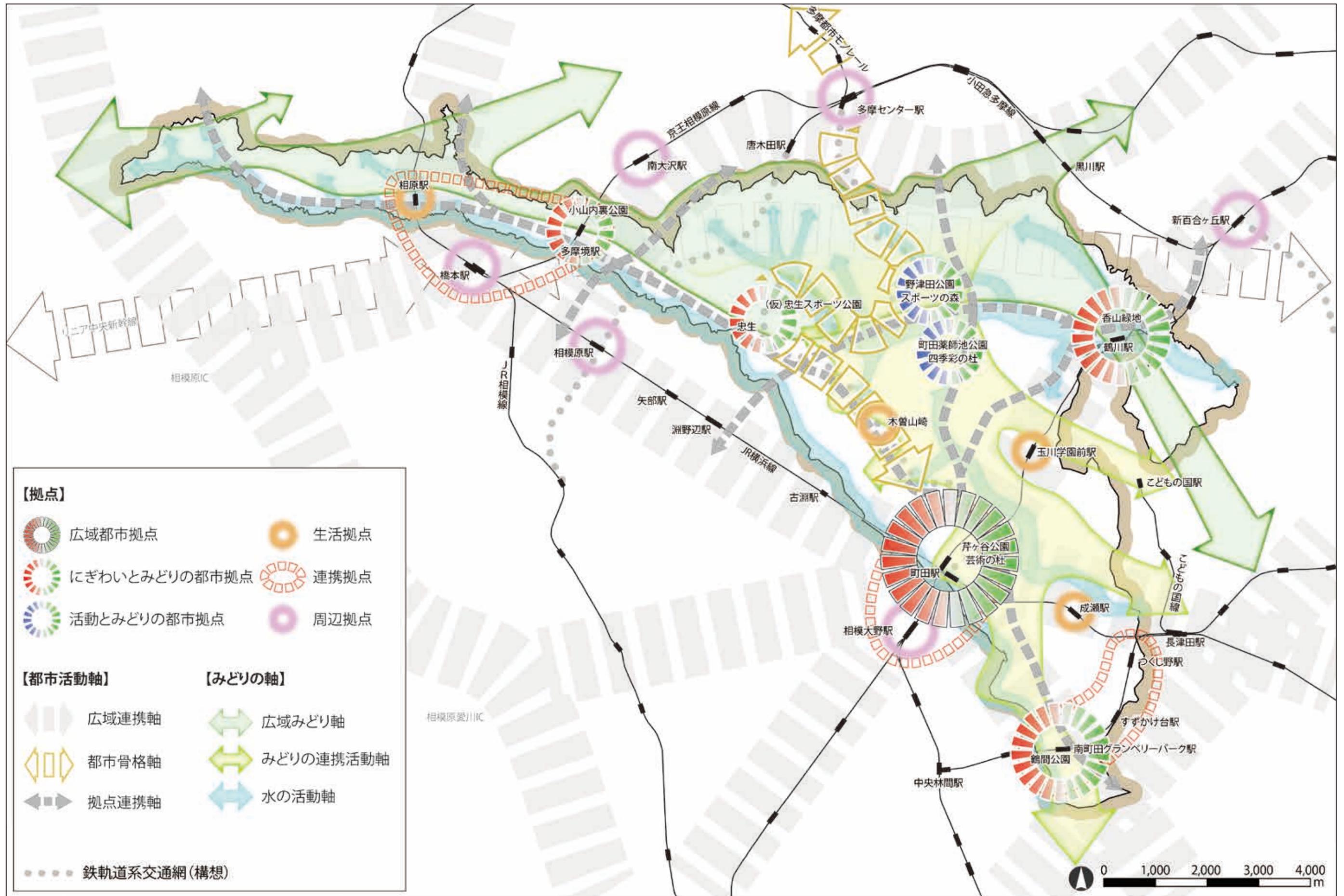
まちの“もよう” ③ 町田らしい新しいモノが生まれる場

市内には、工場や研究施設、物流施設などが集まる場所があります。そこでは、日々の暮らしを豊かにするために、町田らしい新しいモノがいつも生まれていたり、生活に必要な数多くのモノの移動を支えたりしています。

これらの場所を「ものづくりのかなめ」と名付け、町田の新しい産業を創り支える場所としていきます。



2 まちの“つくり” (拠点と軸の図)



※「鉄軌道系交通網(構想)」は、「小田急多摩線延伸に関する関係者会議」及び、「多摩都市モノレール町田方面延伸ルート検討委員会」の資料を基に町田市が作成したものです。(本マスタープラン策定時点で都市計画決定されているものではありません。)

まちの“つくり” ① 拠点

「拠点」は、市民や町田市を訪れる人々が「働く・学ぶ・交流する・憩う・楽しむ・体験する」などの多様な都市活動を実践できる舞台です。人を惹きつけ、新しいものが生み出され、つながる、魅力と活力にあふれた場所です。これまでのまちづくりの蓄積や都市機能の集積、多様な交通結節機能などから生み出される人々の活力と、公園などのみどりが融合したにぎわいと潤いにあふれた町田の拠点を創り育てていきます。

■ 広域都市拠点(町田駅周辺の市街地)

- 町田駅周辺の市街地は、多摩都市モノレールの町田方面延伸により、さらに交通結節機能が充実し、市内だけでなく周辺市も含めたより広い範囲における核として、商業・業務施設をはじめ多様な機能が高度に集積した都市拠点を目指します。
- 商業施設等と一体となった魅力的なみどり・オープンスペース^{▶用語}の憩いやにぎわいがあり、駅周辺から商店街、芹ヶ谷公園や境川が快適な歩行者ネットワークで結ばれていて、歩き回って楽しいスポットが数多くある回遊性の高いまちにしていきます。

■ にぎわいとみどりの都市拠点

鶴川駅 周辺

- 鶴川駅周辺は、道路や駅前広場などの再編により、安全で便利な交通結節機能を向上させます。それを活かしながら、商業施設や文化交流施設、住宅などが集積したにぎわいある都市拠点を目指します。
- 駅や香山緑地、鶴見川及び周辺にある地域資源が快適な歩行者ネットワークで結ばれた回遊性の高いまちにしていきます。

多摩境駅 周辺

- 多摩境駅周辺は、開業するリニア中央新幹線の神奈川県駅から多摩地域への玄関口として、国内外の人やモノが盛んに交流するとともに、大学や産業機能の集積を活かし、さまざまなイノベーション^{▶用語}が生まれる都市拠点を目指します。
- 整えられた道路等の都市基盤や、隣接する小山内裏公園のみどりを活かしながら、多摩境通り沿いの大規模店舗をはじめとする生活利便施設、中高層住宅地を中心とした、潤いのある便利なまちにしていきます。

南町田グランベリーパーク駅 周辺

- 南町田グランベリーパーク駅周辺は、広域的な交通結節点に鶴間公園と商業施設が一体的に立地する特性を活かしながら、多様な暮らし方や働き方を受け止める都市機能がコンパクトに集積した都市拠点を目指します。
- 駅や鶴間公園、商業施設及び周辺にある地域資源が快適な歩行者ネットワークで結ばれた回遊性の高いまちにしていきます。

忠生 周辺 モノレール駅(想定)

- 忠生周辺は、多摩都市モノレール町田方面延伸等により、市内だけでなく多摩市や相模原市方面等との交通ネットワークが充実した、人・モノ・文化が交流するにぎわいある都市拠点を目指します。
- 近接する丘陵地の大規模なみどり、住宅団地や大学、公共施設等が立地する良好な居住・教育環境に加え、多様な都市機能が充実した、みどりの中で便利に暮らせるまちにしていきます。



活動とみどりの都市拠点

野津田公園スポーツの森 周辺

●多摩都市モノレール町田方面延伸による交通利便性の向上と多摩丘陵の豊かな自然に囲まれた立地を活かしながら、スポーツを中心とした活動と交流の拠点として、総合的なスポーツパークを目指します。



町田薬師池公園 四季彩の杜 周辺

●町田薬師池公園四季彩の杜周辺は、周辺施設と連携し、四季を通じて多様な世代が楽しむことができる魅力ある観光拠点を目指します。



生活拠点

相原駅 周辺

●相原駅周辺は、町田街道と鉄道との立体交差化などにより、地域の骨格となる道路網の構築を促進・推進するとともに、地域を支える生活利便施設を充実させることで、市内外の人が集い、自然や歴史・文化に触れながら学び楽しめる拠点を目指します。

成瀬駅 周辺

●成瀬駅周辺は、恩田川などの身近な自然及び、寺社や史跡などの歴史・文化に親しみながら暮らせる住宅地の中の拠点として、地域を支える生活利便機能の維持を図ります。

玉川学園前駅 周辺

●玉川学園前駅周辺は、学生と周辺住宅地の住民など、多様な世代の交流による文化が生まれる拠点として、地域を支える生活利便機能の維持を図ります。

木曽山崎 周辺

●木曽山崎周辺は、人やモノなど地域全体がつながり合いながら新たな暮らしが生まれる生活の拠点として、モノレール駅(想定)を中心とした交通拠点化や団地内センター機能の更新を図るとともに、老朽化した住宅ストックの再生を図ります。

連携拠点

町田駅・相模大野駅の各駅周辺による連携拠点

●相模原市と連携して町田駅と相模大野駅の拠点駅同士の相乗効果を生み出し、首都圏の核となる拠点域の形成を目指します。

多摩境駅・相原駅・橋本駅の各駅周辺による連携拠点

●開業が予定されているリニア中央新幹線の神奈川県駅(橋本駅)と隣り合う、相原駅及び多摩境駅の各駅周辺が連携し、リニア中央新幹線の開業により大きく変化する人やモノの流れを活かしたまちの形成を目指します。

南町田グランベリーパーク駅・すずかけ台駅・つくし野駅の各駅周辺による連携拠点

●東急田園都市線南町田グランベリーパーク駅・すずかけ台駅・つくし野駅の隣り合う3駅周辺が連携し、同一沿線という利点を活かしながら、ライフスタイル^{→用詞}やライフステージ^{→用詞}に合わせた住み替えをしやすくするなど、慣れ親しんだ地域で暮らし続けることができる環境づくりを目指します。

まちの“つくり” ② 都市活動軸

「都市活動軸」は、鉄軌道や道路、交通サービスなどからなる交通網と、それらにより創出される多様な都市活動を支える軸です。市内外の連携や多摩都市モノレール町田方面延伸、拠点間の連携など、それぞれの交通網の特徴を踏まえて活力ある都市活動軸を形成していきます。

■ 広域連携軸

● 広域連携軸は、町田市を含めた広域的な鉄軌道や幹線道路の交通サービス網などによって形成される軸です。広域連携軸の充実を図ることにより、さまざまな都市と活発に連携しながら広域的な都市活動を持続的に発展させていきます。



■ 都市骨格軸

● 都市骨格軸は、多摩都市モノレール町田方面延伸により、町田駅周辺から多摩方面へ向けて市の中央部を貫く交通基盤及び交通サービスを形成する軸です。市内だけでなく多摩地域とさらに連携を深めることにより都市活動を積極的に創出していきます。



■ 拠点連携軸

● 拠点連携軸は、幹線道路の交通サービス網などにより、市内の都市拠点や周辺拠点を緊密につなぐ軸です。拠点連携軸の充実を図りながら、各地域の都市活動のさらなる発展を支えていきます。



まちの“つくり” ③ みどりの軸

「みどりの軸」は、町田市の地形的要素や自然的資源のつながりを捉えた軸です。町田市が有する、北部の丘陵地域をはじめとする樹林地や農地、河川などの自然的資源などを守り・活かしながら、多くの市民にとって身近でみどり豊かと感じられるような都市空間を形成していきます。

■ 広域みどり軸

● 広域みどり軸は、市の西端に位置する大戸緑地から東部の三輪緑地に至る軸です。ここには市街地に隣接してまとまったみどりが存在しています。また、三浦半島から多摩丘陵に至る広域的なみどりのネットワークの一端を担っており、多様な生きものの生息域となっているだけでなく、地域の人々が暮らしとともに育んできた農地や樹林地からなる特徴的な景観や、歴史の深い寺社や史跡など、ここにしかない価値のある稀有な場所です。このような自然的資源や歴史的資源が一体となった町田の原風景の保全・継承を図ります。



■ みどりの連携活動軸

● みどりの連携活動軸は、北部の丘陵地域から鶴間公園に向かって市の南北を貫く軸です。この軸の北端には鶴見川源流域の里山 ▶用語の景観が広がり、市街地には大きな公園等が点在しています。また、これらをつなぐ農地や河川とともに、潤いのあるネットワークを形成しています。こうした多様なみどりを日々の暮らしに活かして、さまざまな活動を創出していきます。



■ 水の活動軸

● 水の活動軸は、鶴見川、恩田川、境川及びその支流とそれらの河川周辺からなる軸です。治水への対応や保水性の向上、緑地の保全、生態系の保全・回復に努めるとともに、水と親しめる空間を活かした活動の充実を図ります。



4 「暮らしとまちのビジョン」の前提

現在の町田市の魅力

「都市的なにぎわいや活動」「居心地の良い住環境」「豊かなみどり・自然」がバランスよく身近にある

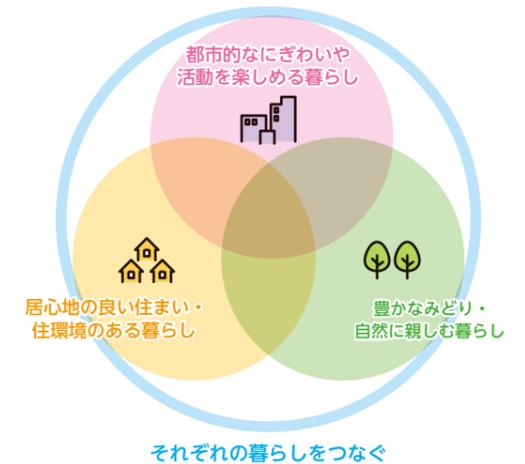
- 町田市の最大の魅力は、「都市的なにぎわいや活動」「居心地の良い住環境」「豊かなみどり・自然」がバランスよく身近にあるまちであること。
- それぞれの要素が各地域で濃淡をもって独自の魅力を創り出している。



これからの町田市の都市づくり

都心のベッドタウンだけではない、町田ならではの魅力ある暮らしが楽しめるまちへ

- 社会状況の変化や町田市の特徴と可能性を踏まえて、町田市の魅力ある「都市的なにぎわいや活動を楽しめる暮らし」「居心地の良い住まい・住環境のある暮らし」「豊かなみどり・自然に親しむ暮らし」を活かし・伸ばす。
- それぞれの暮らしに、より近く、より手が届きやすくなるよう「つながり」をつくり、何かをやりたいと思ったときに気軽に実現できる都市を目指す。



社会状況の変化

これからの町田市の都市づくりに向けて捉えるべきトレンド

■時間の使い方が変わり、市内が活動のフィールドになる

- ICTの進化や働き方改革、学び方の変化などにより都心への通勤通学が減り、市民が市内で過ごす時間が増える。また、市外に働きに出ていた人材が退職し、仕事に費やしていた時間を余暇や地域活動などに充てるようになり市内で活動する人が増えるなど、時間の使い方が変わる。

■住まい周辺の環境に目が向けられるようになる

- 時間の使い方が変わることで住まいの周辺で過ごすことが多くなり、住まい周辺の環境に目が向けられるようになる。例えば、ICTの進化などで「買い物」「仕事」「学び」「娯楽」が場所を選ばずできるようになる一方、意識的にコミュニケーションをとる場や機会が住まいの近くに求められるようになる。

■価値観やライフスタイル・暮らし方が更に多様化する

- 健康的な暮らしへの志向が強まるなど、市民のライフスタイルや価値観はさらに多様化する。

■移動がしやすくなるとともに、移動の目的がより多様になる

- 自動運転、シェアサービス、スモールモビリティ、MaaSなど、移動に関する新たな技術とサービスが一般化し、移動がしやすくなる。また、都心に通勤するような移動は減少する一方で、余暇や交流のための市内の移動が増えるなど、移動の目的が変わり多様化する。

「住む・働く・学ぶ・交流する・憩う・楽しむ・体験する」など、多様で充実した時間を市内で過ごす（活動する）ことに対して関心が高まる

社会的な要請事項

- SDGsの実現に向けて国際的に求められる持続可能な都市づくり
- 少子高齢化や人口減少が進行する中で求められる（技術革新などを取り入れた）効率的な都市経営
- 新型コロナウイルス感染症拡大を契機に加速している、人々の生活や価値観などの不可逆的な変化への対応

町田市の特徴と可能性

町田市の都市の現況を踏まえ、社会状況の変化をこれからの都市づくりに向けた可能性として捉える

■市内で活動する市民が増えることを、地域の主体的なまちづくりにつなげる契機に

- 都心から30～40km圏の郊外都市として1960年代から急激な都市化。都市化に伴い人口が流入し、各地域で年齢構成が偏ったまま住宅地が成長・成熟。早期に開発された住宅地や大規模集合住宅団地では高齢化が顕著。
- ➔退職や働き方の変化により市内で活動する時間が増える市民が、自らが暮らす地域に注目し、日々の暮らしを楽しく豊かにするためのさまざまなまちづくり活動に取り組む契機として捉えることができる。

■市内にある大小さまざまなみどりを、多様な目的で活用することで、日々の暮らしがさらに豊かに

- 市内北部を中心にしたまとまったみどりが存在し、住宅地内には公園・緑地・農地（生産緑地）がある。市内には規模や特徴が異なるさまざまなみどりが存在。
- ➔市民のライフスタイルや価値観が多様化する中で、みどりの特徴に合わせて活用したり、活動のフィールドとして柔軟に利用することで、日々の暮らしを楽しくすることができる。
- *住宅地に間近な公園や農地は、日々の生活の心地よい居場所に
- *まとまったみどりは、その価値を理解し積極的に関わることで守り育てる

■住まい周辺の環境に対する関心を、地域の災害リスクへの関心の高まりに

- 起伏に富んだ地形が多い町田市は、土砂災害警戒区域が多く分布。大雨による浸水予想区域も境川や鶴見川沿いなどに広がる。近年の気候変動などにより災害リスクが高まり、これまで以上の備えが必要に。
- ➔住まい周辺の環境に目が向けられるようになることで、地域の災害リスクに対する関心も高まり、市民が積極的に災害に備えることにつながる。

■モノレール整備等を契機として捉え、ライフスタイルに適した持続可能な交通網に

- 多摩都市モノレール、小田急多摩線は、交通政策審議会答申第198号に位置づけられており、延伸が想定されている。また、隣接市ではリニア中央新幹線の新駅が開業予定であり、交通基盤が大きく変化。
- ➔ライフスタイルの変化や先端技術などにより、今後市民の移動のあり様が大きく変わる中で、モノレール整備等は市民の移動を支える持続可能な交通網を再構築していくための重要な契機として捉えることができる。

資料で
みる

「暮らしとまちのビジョン」の前提

現在の町田市の魅力

「都市的なにぎわいや活動」「居心地の良い住環境」「豊かなみどり・自然」がバランスよく身近にある

社会状況の変化

時間の使い方が変わり、市内が活動のフィールドになる
住まい周辺の環境に目が向けられるようになる
価値観やライフスタイル・暮らし方が更に多様化する
移動がしやすくなるとともに、移動の目的がより多様になる

町田市の特徴と可能性

市内で活動する市民が増えることを、地域の主体的なまちづくりにつなげる契機に
市内にある大小さまざまなみどりを、多様な目的で活用することで、日々の暮らしがさらに豊かに
住まい周辺の環境に対する関心を、地域の災害リスクへの関心の高まりに
モノレール整備等を契機として捉え、ライフスタイルに適した持続可能な交通網に

「都市的なにぎわいや活動」「居心地の良い住環境」
「豊かなみどり・自然」がバランスよく身近にある

◆都市的なにぎわいがある

交通の要衝である

市内には、東京都心へ繋がる小田急小田原線、東急田園都市線、京王相模原線と、八王子と横浜を結ぶJR横浜線が通っています。

市の中心駅である町田駅は、東京都心へ繋がる鉄道と、東京都市圏の放射・環状鉄道が交差する鉄道交通の結節点として、多摩地域屈指のターミナル駅となっています。

また、市内の公共交通は、高いサービス水準を誇る路線バス網によって、町田駅をはじめとする周辺の鉄道駅に接続しており、交通利便性の高い生活環境を支えています。

●広域交通網図

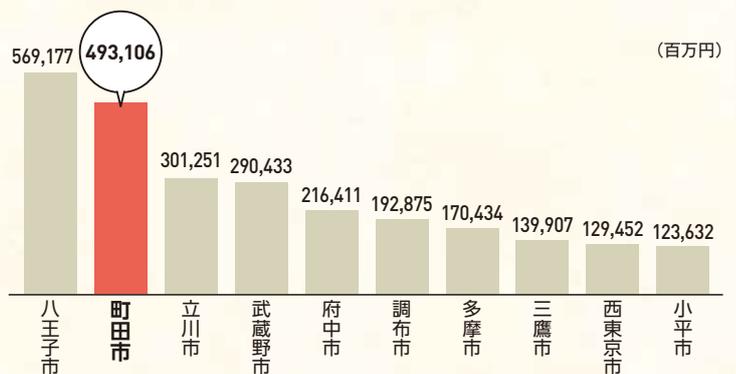


出典:国土地理院「基盤地図情報」から作成

商業集積地である

平成28年度経済センサス活動調査によると、多摩地域の自治体の中で、八王子市に次ぐ第2位の小売業の年間商品販売額となっています。特に町田駅周辺は、大規模店舗や町田らしい個性・魅力にあふれる商店街があり、多摩地域有数の商業集積地となっています。

●多摩地域での小売業の年間商品販売額



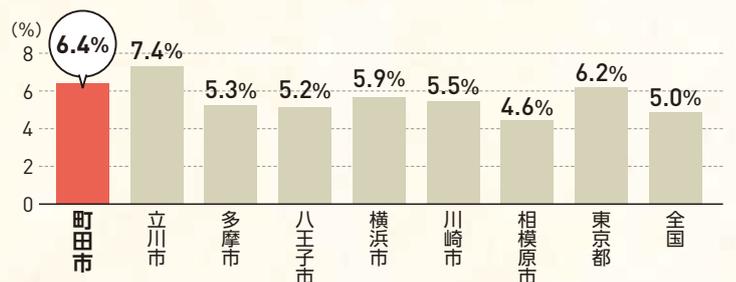
出典:経済産業省「平成28年度経済センサス-活動調査」から作成

起業・創業の水準が高い

市内の2014年から2016年にかけての開業率は6.4%で、近隣市や東京都平均と比較して高い水準にあります。

市では、「チャレンジするならTOKYOの町田から!」をコンセプトに、官民が連携してさまざまな支援と創業者の掘り起しを積極的に行っています。

●町田市及び周辺市の開業率(2014~2016年)



出典:町田市「産業振興計画19-28」から作成

◆豊かなみどりがある

都心部近郊で 希少で大規模なみどりがある

都心から30～40kmの自治体と森林面積割合を比較すると、町田市は3番目に多く、都心近郊でありながら、市街地と近接した北部丘陵^{▶用語}などの大規模なみどりが広がっています。

さらに、1人当たりの公園面積も東京都(島しょ部を除く)の5.4㎡に比べ、町田市は11.1㎡となっており、公園が充実していることが分かります。大小さまざまな公園を活動に合わせて選ぶことができます。

●都心から30～40kmの森林面積割合上位10自治体



順位	市町村名	森林の面積割合 (%)	森林の面積 (ha)	市域の面積 (ha)
1	木更津市	30.6	4253.3	13895
2	袖ヶ浦市	21.8	2073.7	9493
3	町田市	21.1	1509.0	7155
4	瑞穂町	19.3	325.8	1685
5	印西市	18.7	2320.0	12379
6	東大和市	18.4	246.5	1342
7	千葉市	17.8	4832.7	27176
8	四街道市	17.3	596.9	3452
9	入間市	17.2	769.0	4469
10	多摩市	13.9	292.6	2106

※都心から30～40km:市町村の重心を含む場合に比較対象とする

出典:国土交通省「国土数値情報ダウンロードサービス」
「全国都道府県市区町村別面積調(令和3年)」から作成

大規模なみどりが市街地のすぐ近くにあって
いつでも豊かな自然を感じることができる！



市街地と近接した大規模な緑

●1人当たりの公園面積

東京都(島しょ部を除く)

町田市



出典:東京都「公園調書(令和2年4月1日現在)」から作成

大規模な公園が市内に
バランスよく配置されていて、
多くの人アクセスしやすい！



市内の大規模な公園(鶴間公園)

住宅地のいたるところに
生活に身近な公園がある！



市内の身近な公園(高瀬第3公園)

◆良好な住環境がある

ゆとりのある住宅地の整備

町田市は、大規模団地の整備や土地区画整理事業^{◆用語}の実施などにより、計画的に住宅地の整備が進められてきました。現在は、市街化区域^{◆用語}の面積の約9割が住宅用途に使われています。住宅用途の大半を占める第1種・第2種低層住居専用地域内に定められている最低敷地面積(120㎡)の制限や、団地の適切な配置計画などにより、ゆとりある住環境をつくっています。

年少人口の転入超過^{◆用語}数は全国トップクラスで、安心して子育てができる環境として選ばれています。

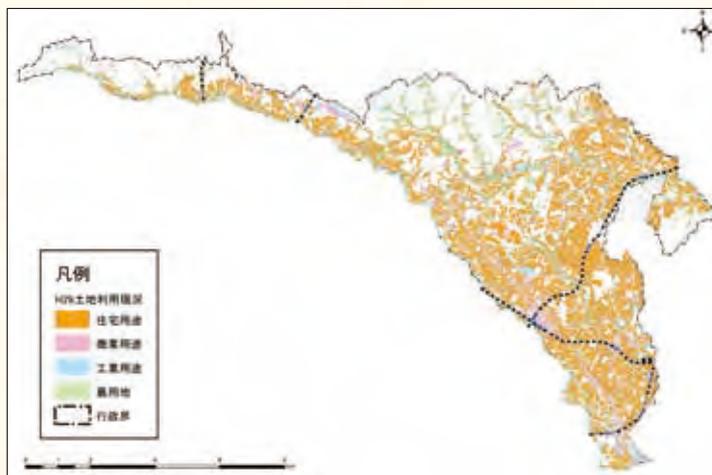


ゆとりある空間の団地



みどりの豊かな戸建ての住宅地

●市内の土地利用の現況



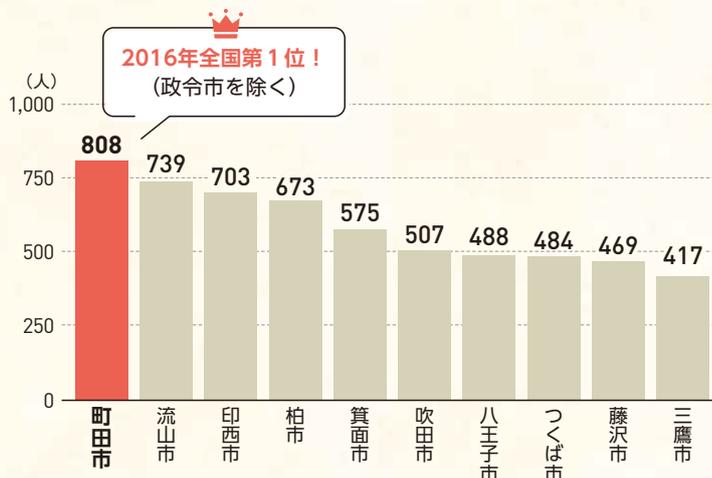
出典:東京都「都市計画基礎調査(2017年)」から作成

●計画的な市街地整備



出典:国土交通省「国土数値情報ダウンロードサービス」、町田市資料から作成

●年少人口転入数



出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告(2016年)」から作成

時間の使い方が変わり、市内が活動のフィールドになる

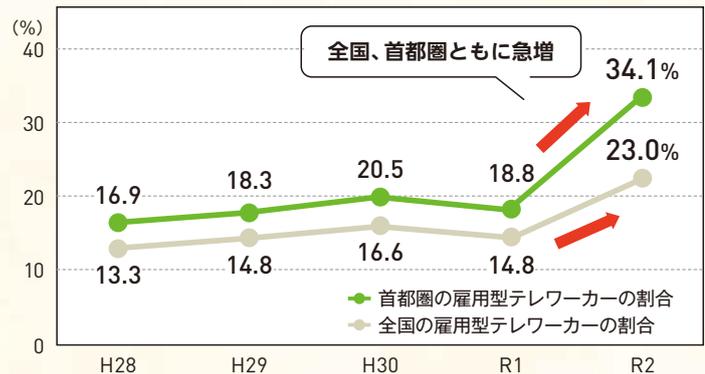
◆住まい周辺で過ごす時間が増える

テレワーク^{【用語】}の導入や EC^{【用語】}、宅配サービスの拡充により、自宅にいらることができるが増えています。

また、コロナ禍の暮らしにおいては、都心への通勤通学などの移動時間が減る一方で、自宅周辺での買い物などの外出が増加しています。

今後も自宅をはじめ、身近でできることが増え、時間の使い方が変わることによって、市内が活動のフィールドになってくることが想定されます。

●全国及び首都圏の雇用型テレワーカーの割合



全 国 H28:n=35,744 H29:n=36,450 H30:n=35,623 R1:n=35,807 R2:n=35,727
 首都圏 H28:n=10,498 H29:n=10,930 H30:n=10,605 R1:n=10,470 R2:n=10,664

出典：国土交通省デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会「中間とりまとめ(概要) (令和3年4月)」から作成

●ECの普及

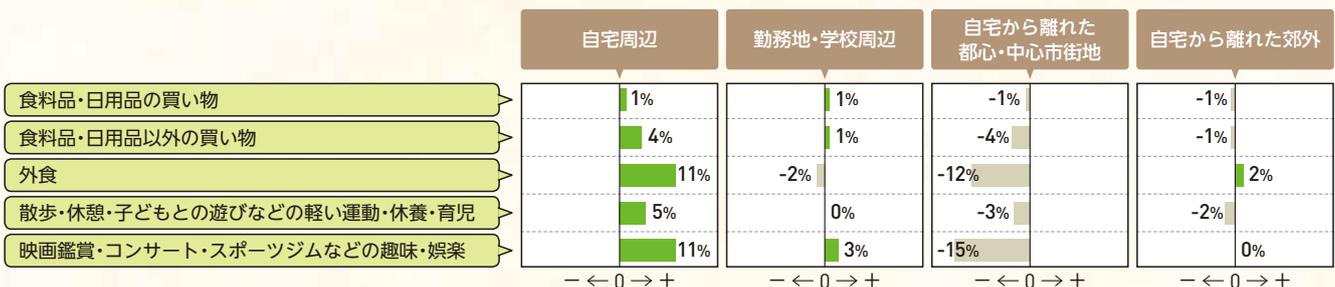


出典：経済産業省「電子商取引に関する市場調査の結果(令和2年7月)」から作成

●コロナ禍で自宅周辺への外出が増加

現在における新型コロナ流行前からの外出場所の変化率

+値：現在(調査時点)の方が訪れている -値：新型コロナ流行前の方が訪れている



出典：国土交通省「新型コロナ生活行動調査(速報版) (令和2年10月)」から作成

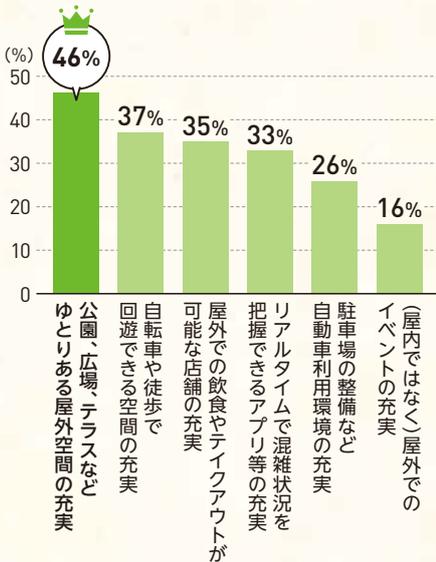
住まい周辺の環境に 目が向けられるようになる

◆コロナ禍を経て、住まいに求めるものが変化している

コロナ禍の影響により、人との間隔を確保できる公園、広場、テラスなどゆとりある屋外空間の充実が求められています。また、住まい選びでも「利便性」だけでなく、緊急時の安全・安心や、テレワーク^{▶用語}等の新しい暮らし方のための環境の充実といった点が重視されるなど、住まいに求められる要素が変化しています。

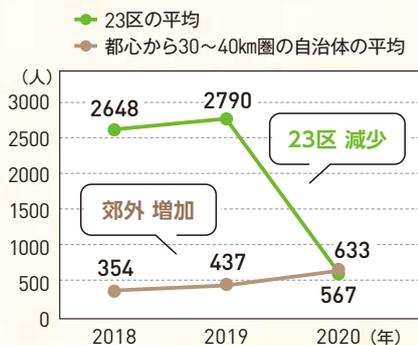
こうした価値観の変化は人口移動にも影響が表れており、都心部の自治体は2020年に入り転入超過^{▶用語}数が大幅に減少した一方、30～40km圏の郊外自治体では増加を続けています。

●コロナ禍を経て充実してほしい空間



出典：国土交通省「新型コロナ生活行動調査(速報版)
(令和2年10月)」

●郊外の転入超過数が増加傾向



※都心から30～40km:自治体の重心を含む場合に
比較対象とする
出典：統計局「住民基本台帳人口移動報告2018・2019・2020」

●住まい選びの変化

住まい選びで重視するポイント	コロナ影響前	現在
公共交通機関が徒歩圏内にある	226	196
職場からのアクセスがよい(例:電車で30分以内)	112	81
家族や親戚の住まいに近い	36	51
周囲にコンビニやスーパーが充実している	143	135
周囲に病院や診療所などが充実している	9	38
周囲に自然が多く、静かな環境である	28	29
学校や保育園など、教育環境が充実している	27	27
治安がよい	81	84
災害の危険性が少ない/防災対応が整っている	40	49
街のブランド・資産性がある	33	23
収納が充実している	124	98
プライベートを確保しやすい	38	57
リビングが広く、家族団らんで過ごしやすい	66	55
通信環境が整っている	47	63
最新設備が整っている	20	25
日当たりや風通しなど、住み心地がよい	104	105
眺望がよい	12	9

出典：株式会社 ディベロップジャパン UXDセンターUXD KURASHI LAB.
「新型コロナの影響と今後の展望」～新たな生活様式“New Norm”への転換を見据えてから作成

コロナ拡大による住宅に求める条件の変化(複数回答)



出典：国土交通省「国土の長期展望専門委員会(第13回)参考資料」から作成

価値観やライフスタイル・暮らし方が 更に多様化する

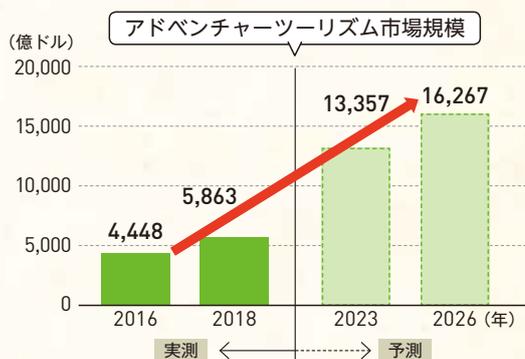
◆健康的な暮らしへの志向が強まる

近年、アドベンチャーツーリズム^{用語}や、市民農園^{用語}の需要が増えるなど、自然やみどりに触れ合う機会が求められています。農産物直売所の売り上げも伸びており、地域の新鮮な農産物が求められ健康意識が高まっていることが伺えます。

また、テレワークの普及などにより、場所を選ばない働き方が可能になったことで、自然に囲まれた中で仕事を行えるワーケーションなどが注目を集め、みどり豊かな郊外の魅力が再認識されています。

今後はさらに、働く・遊ぶ・食べるなどの価値観が変化し、ライフスタイル^{用語}や暮らし方が多様化することが想定されます。

●みどりの中での遊びの普及



出典:国土交通省「地域の自然体験型観光コンテンツ 充実に向けたナレッジ集」から作成
Adventure Tourism Market - Global Opportunity Analysis and Industry Forecast,2019-2026

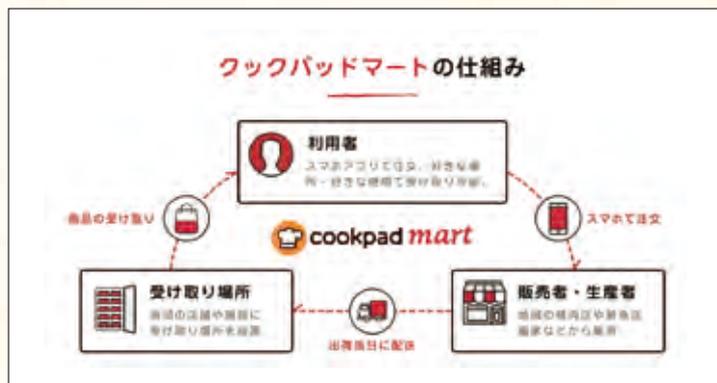
●市民農園の増加



出典:農林水産省「市民農園の設置状況の推移」から作成

●地産地消を推進する生鮮食品EC

町田市、クックパッド株式会社、JA町田市は「町市内農産物の地産地消推進に関する協定」を締結。生鮮食品EC「クックパッドマート」の流通を活用し、市内農産物の販路拡大やブランディング向上を図り、地産地消^{用語}を推進。



出典:クックパッド株式会社ホームページ
相模原町田経済新聞「町田の農産物、クックパッドマートで流通促進 送料・最低注文額ゼロ」

●ワーケーション

ワーケーションとは、オフィスを離れ、観光地や休暇先などでテレワークを行うことで、ライフワークバランスの充実を図る働き方です。

非日常的な空間で、間近にみどりを感じながら健康的に働くことができ、昨今注目を集めています。



ワーケーションのイメージ

移動がしやすくなるとともに、 移動の目的がより多様になる

◆気軽に移動ができる

新しいモビリティサービスに対する 需要の増加

MaaS^{▶用語}やシェアリング^{▶用語}システムなどの新しいモビリティ^{▶用語}サービスに対する需要の増加が見込まれており、これらに関するさまざまなサービスが普及し、既存の交通基盤と合わさることで、身近な移動がより気軽になることが期待されます。

これまで移動の中心だった通勤・通学だけでなく、移動そのものを楽しむ人や、余暇や交流のために移動する人も多くなっていくと考えられます。

近年では、早く確実に移動するだけでなく、環境にも配慮しつつ、移動の時間そのものを楽しむ移動手段が登場しており、地域の特性や移動の目的に合わせた、多様なモビリティサービスの普及が期待されています。

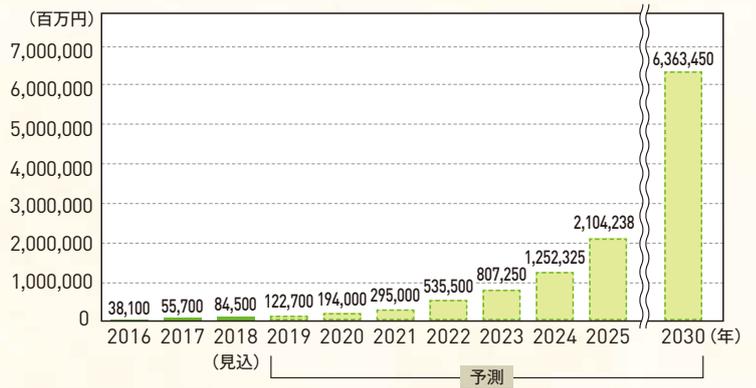
グリーンスローモビリティや スモールモビリティが普及していく

近年登場しているモビリティサービスの1つに、グリーンスローモビリティ^{▶用語}やスモールモビリティ^{▶用語}があります。

グリーンスローモビリティは、時速20km未満で公道を走る4人乗り以上のモビリティで、環境に優しく低速で安全な交通手段として、普及が期待されています。また、スモールモビリティは、コンパクトで小回りが利く1~2人乗り程度の車両で、地域の手軽な移動の足となることが期待されています。

いずれも、観光地や路線バスのサービスが難しい地域などのニーズに応えられる手段として、普及していくことが期待されています。

● MaaSの市場予測



出典：国土交通省「令和2年度国土交通白書」から作成

● カーシェアリングの需要増加



出典：公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団「我が国のカーシェアリング車両台数と会員数の推移(2021年7月)」から作成



出典：国土交通省資料

町田市の特徴と可能性

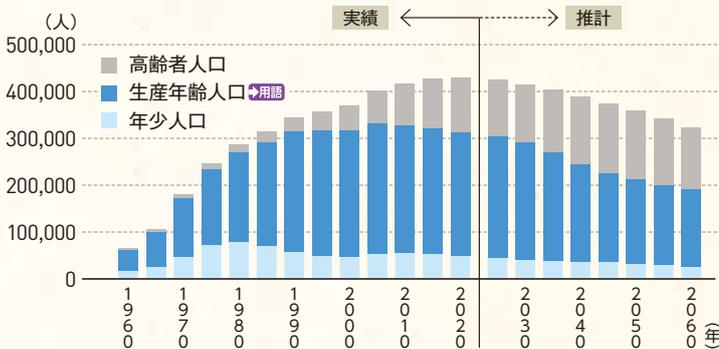
市内で活動する市民が増えることを、地域の主体的なまちづくりにつなげる契機に

◆人口の変遷

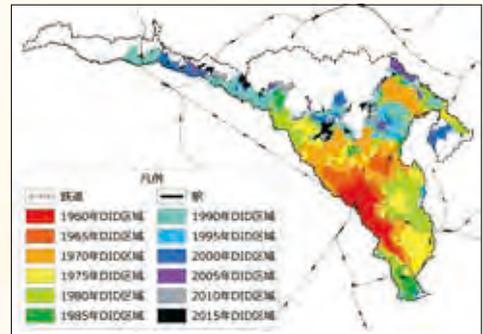
町田市は、1960年代から1970年代にかけて急速に人口が増加し、DID(人口集中地区)も町田駅周辺から拡大していきました。しかし今後、高齢者人口は増加を続ける一方で、総人口は減少に転じると予測されています。特に初期に開発が進んだ団地などでは高齢化が進んでいます。

人口構成や働き方の変化(テレワークの普及などにより都心などへの通勤が不要になっていく)により、市内で過ごす人は今後増加すると考えられます。

●人口推移・将来人口



●DID(人口集中地区)の変遷



出典:東京都「都市計画基礎調査(2017年)」から作成

◆市民の街づくり活動

市内では地区単位の住民主体の街づくりが行われており、「町田市住みよい街づくり条例」に基づき地区のまちづくりの方針・目標がまとめられた、「地区街づくりプラン」が策定されています。

また、市民・地域団体・企業などが、地域とのつながりを作りながら、自らやってみたくて考えている取組を、実現につなげていく「まちだまるごと大作戦18-20」が実施され、まちをより使いやすくする取組やまちを活気づける取組など、さまざまなまちを良くする活動が実現されました。

●まちだまるごと大作戦18-20



鶴川団地活性化プロジェクト
「団地名店街へ行こう！」



みんなで遊ぼう！
プレーヤカーがやってくる♪



地域の憩いの場づくり
大作戦

●地区街づくりプラン

- 1 小山田桜台団地地区街づくりプラン(方針)
- 2 小野路宿通り街づくりプラン(目標・方針)
- 3 田中谷戸地区街づくりプラン(目標・方針)
- 4 原町田四丁目第二地区街づくり構想(目標・方針)
- 5 つくし野三丁目地区街づくりプラン(計画)
- 6 鶴川平和台地区街づくりプラン(計画)
- 7 森の丘景観まちづくり宣言(目標・方針)
- 8 小田急金森泉地区街づくりプラン(計画)

市内にある大小さまざまなみどりを、多様な目的で活用することで、日々の暮らしがさらに豊かに

◆水とみどりが豊富に配置されている

市内には鶴見川や恩田川のような1級河川を含んだ豊富な水資源や大小さまざまなみどりがあり、北部に広がる森林などは生態系保全の重要な緑となっています。

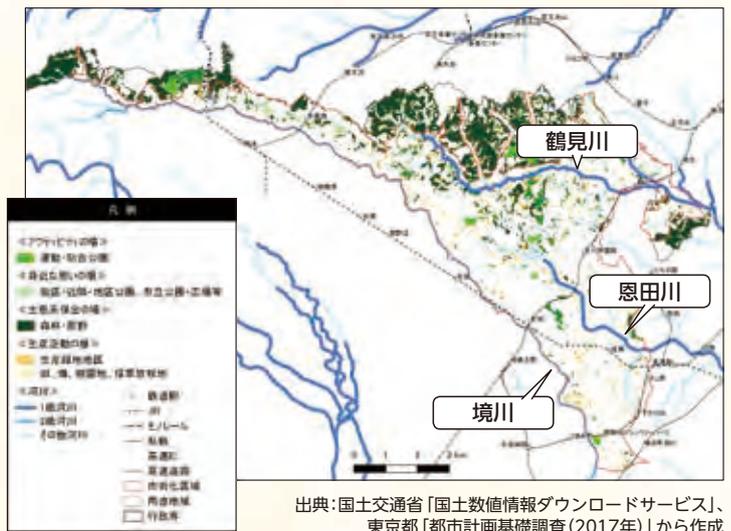
また、市内には生産緑地などの都市農地 **用語** も多く点在しており、今後こうした場所で農を介して、さまざまな人をつなげていく取組も進められようとしています。

芹ヶ谷公園では、“公園で〇〇したい”という声を集め、実験的な取組を行う市民参加型プラットフォーム **用語** [Made in Serigaya] を立ち上げました。

芹ヶ谷公園をフィールドに、キャンプやライブペインティングなどの公園活用の可能性を広げる企画や、町田の文化や自然の魅力を発見・発信する活動を市民と一緒に作り育てていく過程を共有し、公園運営の新たな担い手や仕組みについて検討しています。

市では、「農がそこにある暮らし」をコンセプトに、市民をはじめさまざまな主体が農でつながる官民連携プラットフォームの形成を目指しています。市民や農業者が主体となった農作業体験などを通して、地域内交流や地産地消 **用語** の促進など、農や人とのふれあい機会が創出され生活が豊かになると考えます。このような取組の場として、都市農地の活用を図ります。

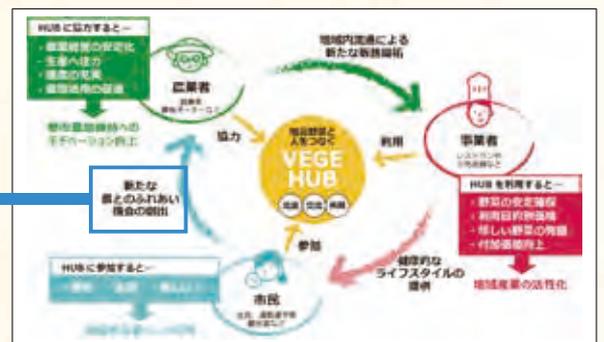
●自然的土地利用および河川の分布



●みどりの活用事例



●市が考える都市農地活用のイメージ



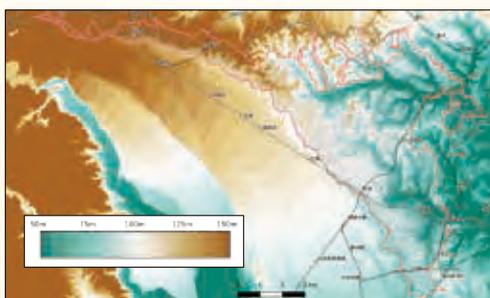
住まい周辺の環境に対する関心を、 地域の災害リスクへの関心の高まりに

◆災害リスクが点在

町田市は、起伏に富んだ地形が多く、広い範囲で土砂災害警戒区域^注が指定されており、鶴見川や境川周辺は浸水予想区域^注となっています。

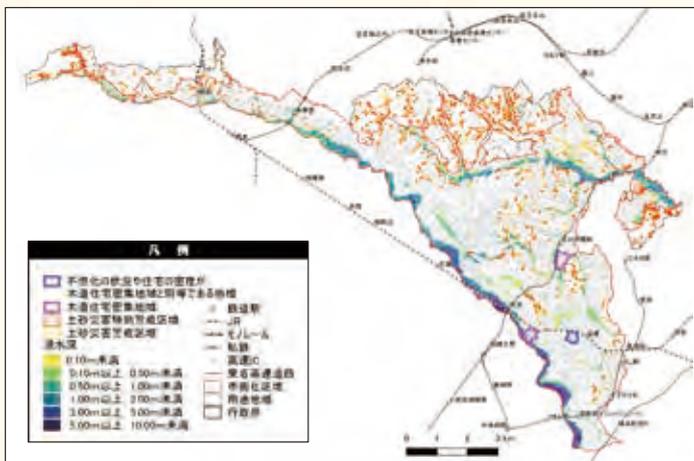
また、一部地域で災害時に延焼被害のおそれがある木造住宅密集地域^注や、不燃化の状況と住宅の密度が木造住宅密集地域と同等である地域として位置づけられている他、地震による建物倒壊や災害活動困難度などを加味した、総合危険度がやや高い地域が存在しており、市内にはさまざまな災害リスクが点在していることがわかります。

●地形



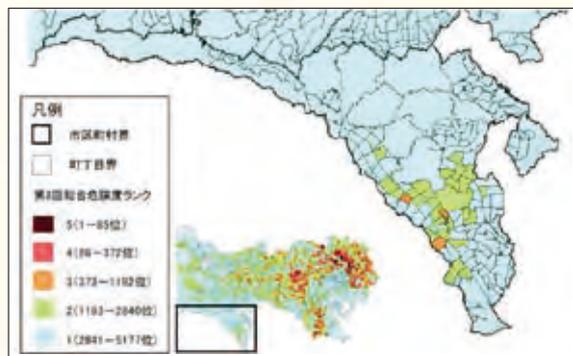
出典：国土地理院「基盤地図情報」から作成

●災害リスクの分布



出典：東京都「流域浸水予想区域図」、町田市資料から作成

●総合危険度マップ

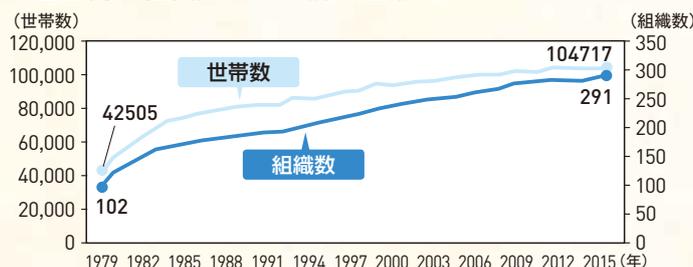


出典：東京都「地震に関する地域危険度測定調査報告書(第8回)(平成30年)」

◆防災に関連したまちづくり活動

災害時における共助を担う自主防災組織の数は年々増加しており、地域防災に対する市民の関心が高まっています。

●自主防災組織数および構成世帯数



出典：町田市地域防災計画 資料編(2016年度修正)から作成

モノレール整備等を契機として捉え、 ライフスタイルに適した持続可能な交通網に

◆新たな交通環境

今後、町田市周辺の交通基盤は、多摩都市モノレール及び小田急多摩線の延伸計画や、隣接する相模原市におけるリニア中央新幹線の神奈川県(仮称)駅の開業などにより、大きく変化していく可能性があります。

ライフスタイル²⁾や価値観が多様化し、人々の移動のあり方も変化していくことが予想される中、新たな交通基盤の整備は、市内の交通環境をライフスタイルに適した快適で持続可能なものへとバージョンアップさせる大きなチャンスとなります。

●リニア中央新幹線の計画概要



出典:国土交通省資料

●多摩都市モノレール延伸 計画概要



●小田急多摩線延伸 計画概要



出典:交通政策審議会「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について(答申)(2016年)」から作成

◆モノレール延伸によるまちへの効果

多摩都市モノレールは現在、運行されている多摩センター駅から上北台駅間の約16kmが2000年に全線開業しました。2016年には、国土交通省の交通政策審議会がまとめた答申において、『「東京圏の都市鉄道が目指すべき姿」を実現する上で意義のあるプロジェクト』とされた30路線のうち、「事業化に向けて検討などを進めるべき」6路線の1つに位置づけられています。

町田市においても、多摩都市モノレール延伸は多摩地域を南北につなぐ都市骨格軸として、移動の利便性向上だけでなく、沿線のまちの魅力向上や活性化を一層進めるまちづくりの契機と捉えており、これから先の町田市の発展には欠かせないものであると考えています。

移動が便利になります

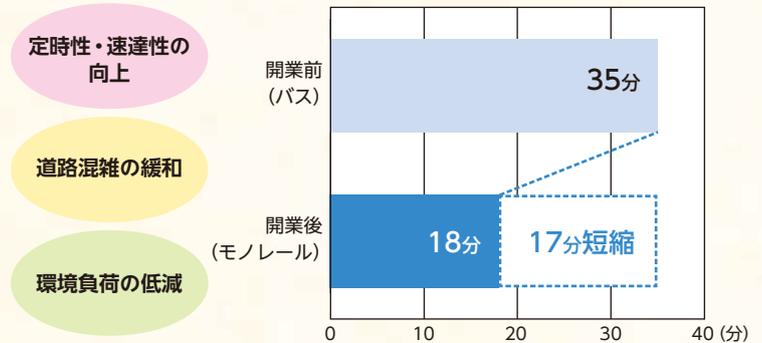
モノレールの移動は、路線バスや自動車に比べて「定時性・速達性の向上」「道路混雑の緩和」「環境負荷の低減」の効果が期待されています。

例えば、モノレールを利用して小山田桜台団地から町田駅まで移動すると、現行のバスに比べて所要時間は17分短縮されます。

また、モノレール駅にバスを集めて運行を効率化することで、道路混雑の緩和や昨今のバス事業の大きな課題である運転手不足の解消にもつながります。

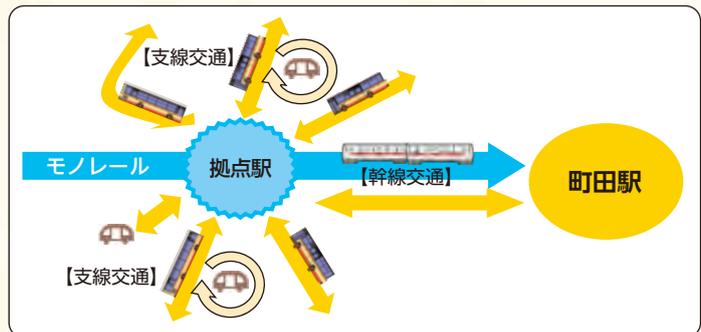
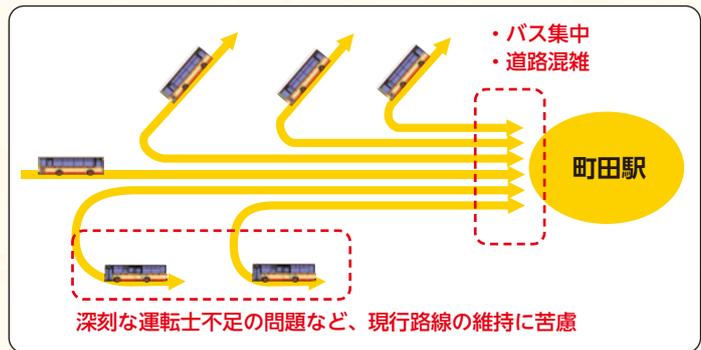
ゴムタイヤで走行するモノレールは、振動・騒音が少なく、排気ガスも出さないため、環境負荷も低減されます。(ひと1人を1km運ぶために排出するCO₂の量は自動車384gに対してモノレールは19gになります。)

●モノレール開業による時間短縮効果 (小山田桜台団地～町田駅間)



出典:多摩都市モノレール町田方面延伸促進協議会パンフレットから作成

●モノレールを幹線交通、路線バスを支線交通とした公共交通網が構築できます

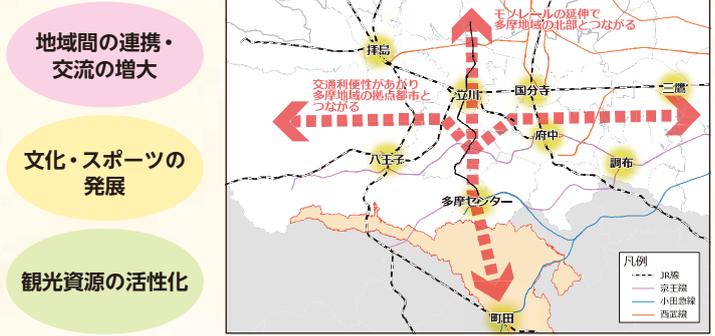


新たな交流が生まれます

多摩都市モノレールにより、市域を縦断的に移動できるだけでなく、多摩地域が南北につながります。さらに、モノレールに交差する鉄道を介して、より広域のエリアへの移動がしやすくなります。

このことにより、さまざまな地域との連携・交流が増大します。またお互いの地域の文化・スポーツの発展や、観光促進にもつながります。

●モノレール延伸による地域とのつながり



暮らしやすくなります

モノレール沿線地域は、定住人口や事務所・従業員数が増加し、駅周辺の商業・業務機能や、生活利便施設の充実により、暮らしが便利になります。

●多摩都市モノレール開業前後(2000年⇨2015年)での沿線地域とそれ以外の地域の人口等増加率の比較



出典：町田市「多摩都市モノレール延伸に伴うまちづくり検討業務委託」(2018年)から作成

現在取り組んでいるまちづくりの動きを進めます

市ではかねてより、町田駅前の中心市街地の活性化、大規模住宅団地の再生、北部丘陵(用語)をはじめとする豊かなみどりの活用に取り組んでいます。

モノレールの延伸は、これらの取組を加速させる契機となります。

中心市街地の活性化

大規模団地の再生

みどり空間の活用

+